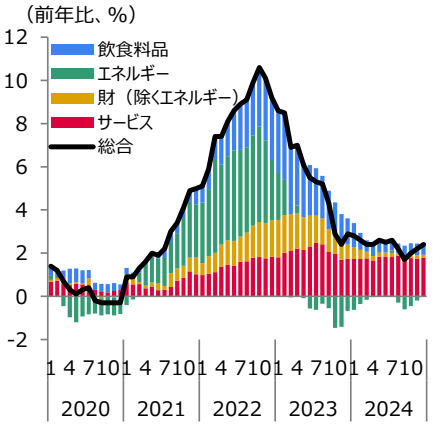
欧州

消費者物価（2024年12月）

物価は3カ月連続の上昇だが、先行きは2%程度で推移

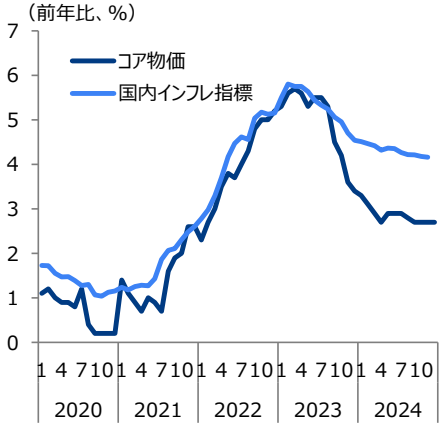
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 消費者物価（ユーロ圏）



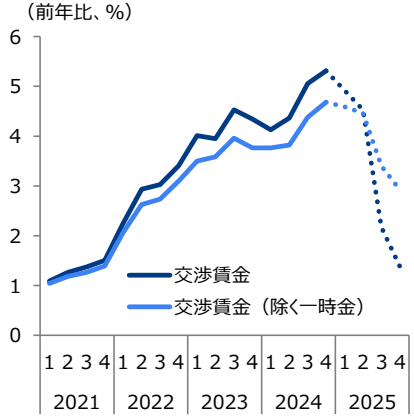
出所：Eurostatを基に三菱総合研究所作成

2 基調的物価指標（ユーロ圏）



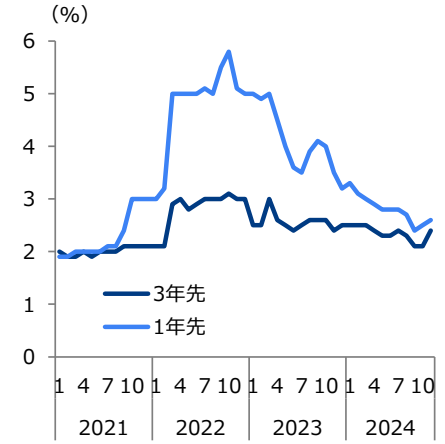
注：国内インフレ指標のみ直近は24年11月。
出所：Eurostatを基に三菱総合研究所作成

3 ECB賃金トラッカー



注：点線は賃金統計の実績が未公表の24年10-12月期以降。ECB賃金トラッカーは独仏など7カ国の賃金交渉に関するデータを基に作成された指標。
出所：ECBを基に三菱総合研究所作成

4 家計の期待インフレ（ユーロ圏）



注：中央値。
出所：Macrobondを基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 24年12月のユーロ圏の消費者物価指数（HICP、速報値）は前年同月比+2.4%（図表1）。前年の一時要因の反動から、3カ月連続で上昇。
- ECBが注目する、コア物価は同+2.7%と24年入り以降3%近傍で推移している。また、賃金上昇の影響を受けやすい品目で構成される国内インフレ指標も4%台で高止まりしている。基調的な物価上昇圧力は依然として強い（図表2）。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の消費者物価は、2%目標に近づきつつある。
- 今後の注目は、ECBが重視するコア物価や国内インフレ等の基調的な物価指標の動向である。
- 先行きは、賃金の伸び鈍化から、基調的な物価指標の伸びも徐々に鈍化、ECBは25年後半にかけて中銀預金金利を2%まで引き下げるとみる。
- ユーロ圏経済の停滞により、製造業を中心に労働需要は弱まっており、労働需給のひっ迫感は緩和しつつある。また、家計の購買力を取り戻すために続いていた高めの賃金引き上げ要求も、25年には落ち着くとみる。実際に、ECBが主要国の賃金交渉の状況を基に公表する賃金トラッカーをみると、25年の賃金上昇率は、25年後半にかけて鈍化する見込みである（図表3）。
- 先行きのリスクは、資源や食料品価格の上昇である。ウクライナ経由でのロシア産天然ガス供給が24年末に停止されたことを受け、天然ガス先物価格は上昇しているほか、異常気象の影響から食料品価格も上がっている。引締め的な金融環境で安定していた家計の期待インフレは直近は小幅に上昇しており、今後も上昇しないか注視が必要である（図表4）。
- 企業の過度な価格転嫁や期待インフレ上昇による高めの賃金引上げ要求が再び進めば、ECBは利下げペースを緩めるだろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.